

【別紙 耐力壁-2】床をはがさずに柱同寸以上の土台を新設し、構造用合板 P1 仕様で補強する場合

* P1仕様の条件

【共通基本事項】～アンカーボルト、柱脚金物を取り付ける位置がポイントです。～

- ・N50@150mmで柱、土台、梁桁の構造部材にきっちり4周打ち
- ・P5仕様となる場合は、面材の切り欠き幅(端部釘打ちできない幅)が概ね100mm以上の場合です(耐力壁Q&A12参照)。
- ・貫通口がある場合、補強壁として許容できる範囲は「施工マニュアルP39」や本Q&Aの”耐力壁Q&A10、11”を参照してください。
- ・ホールダウン金物15kN以上を要する引抜力が接合部にかかり、無筋コンクリート基礎の場合は、通常の基礎までホールダウン用アンカーボルトを打ち込むことが必要となるため、ツイン基礎補強を行うこととなります。
- ・柱頭-柱脚金物は変換N値計算(もしくはN値計算)で接合部にかかる引抜力を算出しその引抜力以上の短期許容引張耐力を有する金物を柱頭柱脚接合部に取り付けます。
- ・アンカーボルトは新設既設問わず、柱中心から200mm以内に取り付けます(出来る限り外側に)。

図		施工上の注意点	
A		アンカーボルト	
		<p>アンカーボルト(M12)は新設土台の上から基礎の埋め込み深さ(メーカー仕様に準拠)を確保できるように取り付けます。</p>	柱脚金物
		<p>新設土台と柱に柱脚金物を取り付けます。</p>	その他
<p>既存アンカーボルトの有無は問いません。</p>		アンカーボルト	
B		アンカーボルト	
		<p>アンカーボルトは新設・既設を問わず、既存土台と基礎を緊結させます。(柱芯200mm以内、出来る限り外側に)</p>	柱脚金物
		<p>柱脚金物は、既存土台と柱とを接合するように取り付けます。ただし、新設土台を既存土台に重ねる場合で、柱脚金物を取り付けるための新設土台の一部切り欠きはやむを得ないものとします(ただし切り欠きの程度による)。</p>	その他
<p>新設土台と柱をコーナー金物で接合します。また、新設土台と既存土台との間に隙間がある場合は、その間に新設土台を支持する枕材(柱半割程度)等を入れましょう。</p>			